

【決算ハイライト】

- ① 2021 年度決算 (カッコ内は 2020 年度比)
 - ・売上高=50,395 百万円(+8.5%)、経常利益=5,644 百万円(+20.1%)
→2 年ぶりに過去最高の売上高・利益を計上。売上高は初の 500 億円超え。
- ② 2022 年度見通し (カッコ内は 2021 年度比)
 - ・売上高=54,000 百万円(+7.2%)、経常利益=5,700 百万円(+1.0%)
→売上高、経常利益とも 2 年連続過去最高を更新の見通し。
- ③ 配当
 - ・2021 年度予定；昨年 10 月公表の 75 円/株・年 (過去最高額) を予定。
 - ・2022 年度予想；中間配当 40 円/株を含む 85 円/株・年を予想。(配当性向 30→35%程度へ)

【中期経営計画ハイライト(2022-2024 年度)】

- ① 総論 (基本的な考え方と財務目標)
 - ・“Accelerate innovation JFE-SI が加速する” のキャッチフレーズの下、当社がこれまで培ってきた「商品力/技術力」と「人材力」を掛け合わせ、更なる企業価値向上を目指す。
 - ・最終年度(24)売上高：570 億円、経常利益：66 億円(ROS11.6%)、ROE：期間中 15%程度を維持
- ② 各論 1 (事業別戦略)
 - ・鉄鋼：製鉄所システムリフレッシュの本格化への対応に加え、JFE スチールの DX 施策に寄与
 - ・ソリューション・プロダクト：ERP~周辺ソリューション~DX まで幅広い提案
 - ・ビジネスシステム：先進的な顧客の取組みに呼応し、新技術(ローコード開発等)を活用・推進
 - ・基盤：JFE グループ向けの実績をもとに JFE グループ外のお客様の開拓
 - ・DX：JFE グループの DX 実績をもとにした DX 新規ビジネスの拡大
- ③ 各論 2 (全社横断施策)
 - ・投資：将来の成長に向けた新商品開発投資等、150 億円/3 か年を想定
 - ・株式施策：配当性向の引き上げ(30→35%程度)と中間配当の実施
 - ・サステナビリティ：マテリアリティへの取組みを通じて、持続的な社会の実現に貢献
 - ・人材育成：高度な技術力(SoE、DX 等)を有する人材の育成・拡充(人材投資 +20 億円)

【質疑応答内容】

- Q1：2022年度の見通しでは、鉄鋼向け、すなわち親会社向けの売上増に対して、利益率の伸びが低いが、親会社向けのビジネスは収益の確保が難しいということなのか？
- A1：当社は事業別の利益率を公表していないが、鉄鋼向け、一般顧客向けそれぞれの利益率は、多少の違いはあるものの、概ね同水準とご理解頂きたい。
- 2022 年度の見通しで、大幅な売上増に対し利益増が小幅に留まるのは、当社の将来の成長のため

にかける費用（商品開発・人材育成等）を見込んだ結果であり、伸長する鉄鋼向け（親会社向け）ビジネスの利益率が低い訳ではない。

Q2：新しい中期計画の中で、設備投資について、特に重視したい点は何か。また、一例としてどのようなものを想定されているのか？

A2：新しい中期経営計画の3か年で150億円の投資を見込んでいるが、主なものは、

- ・サービス提供型ビジネス向け投資＝50億円
- ・商品開発投資＝20億円

。である。例えば商品開発投資では、自社パッケージ商品のクラウド化などを想定している。

。

以上